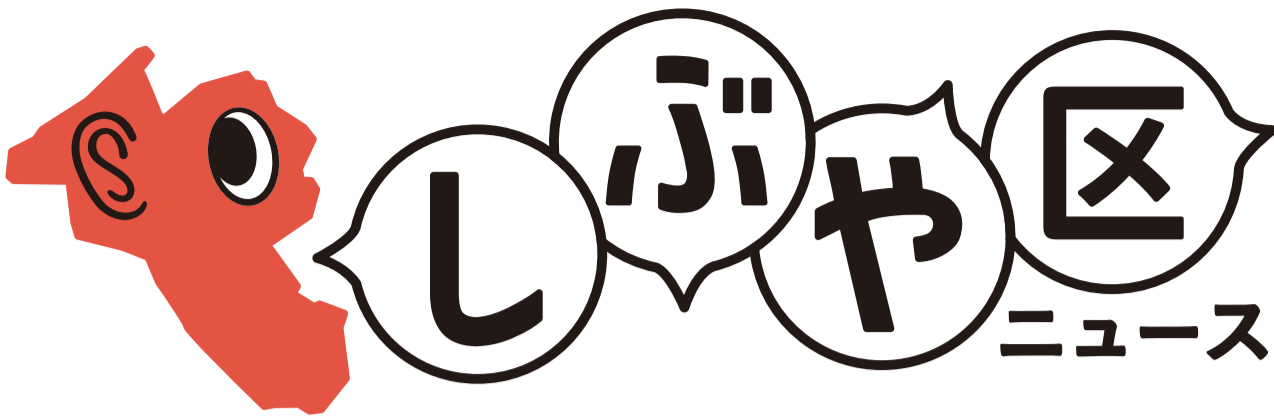


顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

令和2年
(2020年) 9月15日

No.1445



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)
HP | www.city.shibuya.tokyo.jp/
Twitter | @city_shibuya
Facebook | @shibuya.city
Instagram | @city_shibuya_official
LINE | @shibuyacity



(左から) 植田工さん、ヒロ杉山さん、しりあがり寿さん

街中のアートで、防災意識を高めよう。

渋谷の矢印は、もしものときの道しるべ。

2 普段はアート、災害時はサイン。	4 10月1日は「平和・国際都市	6 渋谷区内のお店を応援しよう	8 ぐらしの情報
3 矢印に込められた思い。	5 渋谷の日」ですほか	7 PayPay最大20%ポイント還元キャンペーンほか	11

渋谷区基本構想が掲げる渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

普段はアート、災害時はサイン。矢印に込められた思い。

渋谷のラジオで
出張インタビュー

災害時に帰宅困難者を「一時退避場所」に導くために、矢印のアートを街中に設置する「シブヤ・アロープロジェクト」。参加アーティストに、それぞれの作品に込めた思いなどを伺いました。



作品を見てもらえて世の中の役に立つ。アーティストにとっても魅力的な試みです。

すぎやま
アーティスト ヒロ杉山さん



自分たちの街だから自分たちで広めよう。こういう意識も大切かなと思います。

ことほ
アーティスト しりあがり寿さん



描いた矢印から生きる希望を感じてもらえたらうれしいです。

たくみ
アーティスト 植田 工さん

「役割」と「表現」のバランスを探りながら。

皆さんが「シブヤ・アロープロジェクト」に参加することになったきっかけを教えてください。

ヒロ：もともとは株式会社クラブキング代表の桑原茂一さんが主宰する「Rock n'ARROW project®」というアートプロジェクトに参加させてもらっていたんです。平成29年に渋谷区が「シブヤ・アロープロジェクト」を始めることになって、改めてお声掛けいただきました。

しりあがり：僕もきっかけは同じです。普段役に立たないものばかり作っているの(笑)、役に立つものを作れるってだけでうれしくて頑張っちゃいました。

植田：東日本大震災の経験を踏まえて、矢印という記号に「避難」や「希望」というメッセージを込めるといったアイデアが素晴らしいなと思いました。ずっと参加したいと思っていたプロジェクトなので、お声掛けいただいてうれしかったです。

※ジャンルを超えたアーティストたちが、災害時の矢印(避難誘導サイン)を「命を救う矢印(Rock n'ARROW)」としてプランティングしたアートプロジェクト。デザインTシャツなどの売り上げの一部を被災地支援などの団体へ寄付することを目的としています。

作品(12ページに掲載)にはどのような意図や思いが込められているのでしょうか？

ヒロ：初めて見た人にも矢印だとすぐに認識してもらえること、看板やネオンがひしめく渋谷の街中に埋もれないことを意識しました。入り組みながらも一定方向へ進むチューブの矢印は、災害時に人々が一時退避場所へ避難していく様子と、そのエネルギーを表現しています。いろいろな角度から見て楽しんでほしいです。

しりあがり：混乱しがちな災害時でも思い出しやすい絵を描きたいと思ったんですけど、実はけっこう悩んだんです。震災が起きた時と普段とは同じ絵でも見え方は違うと思うので、楽しくふざけた絵を描くべきか、少しシリアスなものにすべきかって。でもね、僕はやっぱりシリアスなものは描けない(笑)！割り切るまでは時間がかかったけど、下書きから完成までは1週間くらいでした。

植田：しりあがりさんは、びっくりするくらい速かったですね(笑)。

あんなに大きな壁画なのに2時間くらいですらすらと下絵を完成されていて。僕は、その背後で毎日ちまちまと描いていて、完成まで2週間近くかかりました。僕が母子像やギリシャ神話をモチーフにしたのは、生きる方向や希望を指し示すような矢印にしたいと思ったからです。ふと目にした時に、頑張って生きようって前向きな気持ちになってもらえたらうれしいですね。

日常を楽しみながら、もしものときに備える。

渋谷の街を初めて訪れる人の目線に立つと「シブヤ・アロープロジェクト」の作品はどのような存在になると感じますか？

ヒロ：最初は何の矢印か分からないと思います。でも、5年、10年と続けていけば、渋谷にはこういう矢印があるということがガイドブックにも載るようになって、外国人旅行者にも浸透していくと思います。そして、このプロジェクトが渋谷区からどんどん広がって「矢印=避難場所への方向」という認識が世界共通になれば面白いですよね。矢印には方向を示すというシンプルで強い役割があって、それは言語や文化の違いを超えてワールドワイドに展開できるものだと思います。

しりあがり：日本はこれだけ地震が身近なのに、街中には地震を意識させるものがほとんどないですよね。普段から不安がらせていいのかという話もあるんですけど、実際に地震は起こるわけだから、日常生活の中に地震や災害に対するちょっとした緊張感はあるのもいいんじゃないかなと思います。

植田：しりあがりさんとお話しされたように、災害時に役立つためには、災害が起こる前に意識していることが大事なのかなと思います。この矢印がどこを示しているのかということ、アートとして楽しみながら意識できるっていうのがいいですよね。

このような「アート×防災」の取り組みについて、アーティストの立場から、どのようにお考えですか？

ヒロ：より多くの人々に自分の作品を見てもらえるだけでなく、それが世の中の役に立つ。二重の喜びが得られるので、とても魅力的な試みです。そもそも公共の場で作品を発表するには許可

もいるし、スペースも必要だし、お金もかかります。渋谷区は街のみんなの安全を守り、なおかつアーティストの活動をサポートするために、いち早く動きだした。世界的に見ても画期的な取り組みだと思います。

しりあがり：JRの高架下の壁面だって、お金を出して借りようと思ったら月にいくらかかるんだらうって考えると、そんな所に絵が描けるといのは、やっぱりうれしいですよね。

9月は防災月間ですが、東日本大震災のときの体験や、皆さんが日ごろから災害に備えていることなどはありますか？

ヒロ：当時は六本木から車で自宅に帰ろうとしたんですけど、もう大渋滞でしたね。普段20分くらいのところが2時間くらいかかりました。震災後は防災グッズを一通りそろえましたね。そろそろ非常食の入れ替えをしないと。

しりあがり：僕は桜丘町の事務所にいたんですけど、家に帰れない知人たちが集まってきて、一晩泊まりました。それを機に棚の上に置いていた重いものは全て下ろして、水や食料を備蓄するようになりました。やっぱり渋谷って、すごく人が多いじゃないですか。人の流れを分散させないと二次災害が起こりかねないので、一時退避場所への誘導はとても大切だと思いますね。

植田：僕は代々木上原にある友達の花屋さんに行こうと思って東横線に乗っていました。電車を降りて渋谷の街を歩いていたら、帰れない人が街にあふれていたんですけど、お店の人が水やあめを配ったりしていて、みんなが助け合うような空気もあって…。このプロジェクトが浸透していけば、災害時に「避難場所はこっちだよ」って声を掛け合うようなことも自然と起こるのかなと思います。

防災意識だけでなく、創作意欲も上向きに。

現在は防災に加え、新型コロナウイルス感染予防も意識しなければなりません。アーティストの環境や意識にも変化はありますか？

ヒロ：個展の延期やイベントのキャンセルなど、影響は出ています。アーティストにとって作品を発表できないというのは大きなストレスなんですよね。作品が多くの人々の目に触れること、それに

シブヤ・アロープロジェクトとは？

災害時に海外からの来訪者も含めた渋谷駅周辺の帰宅困難者に、一時退避場所(青山学院大学、代々木公園一帯)の方向を認知してもらうため、アート性あふれるデザインの矢印サインを設置する活動です(平成29年開始)。詳しくは12ページまたは、シブヤ・アロープロジェクトHPをご覧ください。

シブヤ・アロープロジェクトHP▶

アーティストプロフィール

ヒロ杉山 国内外でファインアートの作品を発表する一方、グラフィックデザインや広告なども作品を発表し続けている。	しりあがり寿 1985年「エレキな春」で漫画家デビュー。さまざまなジャンルの漫画制作に加え、映像やアートなどの創作も行う。	植田工 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻・卒業。絵画やイラスト、映像などいろいろな表現手法で活動を展開している。
---	---	---

対してギャランティーが発生することは、創作のモチベーションにもつながる。そういう意味でもこのプロジェクトは意義のあるものだと思います。

植田：モチベーションって大事ですよ。ずっとアトリエにこもって描いているだけだと縮こまってきちゃうので、このプロジェクトのようにアーティストがもうちょっと公共の場に出て、できることが増えていくといいなと思います。

しりあがり：この先どうなるんだろうと不安はあるけど、気持ちが変わるとだいぶ違うんじゃないかなと思うんですよね。このプロジェクトも本来の目的は一時退避場所への誘導だけけど、こういう時だけは、気分が上がるような上向きの矢印のデザインをインターネット上で募集するとか、そういう試みがあっても面白いと思います。

「シブヤ・アロープロジェクト」の認知や可能性が広がっていくといいですね。最後に区民の皆さんにメッセージをお願いします。

ヒロ：まずは、このプロジェクトをたくさんの人に知ってもらいたいです。もしもの時に避難する方向を確認すると同時に、普段は純粋にアートとして楽しんでほしい。街のどこにどんな矢印があるのか見て回るのも面白いと思いますし、次はどんな矢印が出てくるのか、今後の展開にも期待してもらえたらうれしいです。

しりあがり：日々の会話の中で「あの矢印、知ってる？」というように話題にするだけでもいいと思うんです。もしかすると、その話を聞いた人が、いざという時に助かるかもしれない。自分たちの街だから、自分たちで広めることが大切じゃないかなと思います。あと、このプロジェクトが「アートと街の関係」について考えるきっかけにもなるといいですね。そういうのは、やっぱり渋谷が1番向いていると思いますよ。

植田：そうですね。渋谷はストリートからいろいろなカルチャーやアートが生まれてきた街ですからね。時代の流れとともに変わりつつあるけれど、このプロジェクトをきっかけに、渋谷が生きてエネルギーに満ちた楽しい街になってくれたらうれしいです。

ヒロ杉山さん、しりあがり寿さん、植田工さんへのインタビューは9月15・22・29日に「渋谷の星」で放送します。

問広報コミュニケーション課広報係 ☎3463-1287 📠5458-4920

渋谷区の番組を放送中です

ラジオ しぶや区ニュース (10分間) 月~木 11:00/16:00/21:50 「しぶや区ニュース」の情報を発信します。	渋谷の星 (45分間) 火 11:15 渋谷区で活躍する人たちが登場します。	渋谷のくらし (30分間) 火 16:20 地域の催しなどの様子を伝えます。	ラジオ しぶや区ニュース(区長の部屋ほか) (10分間) 金 11:00/17:00/19:50 長谷部区長が出演します(ラジオしぶや区ニュースの内部になる場合あり)。
---	---	---	---

「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数:
87.6MHz FM ☆公式アプリでも聴取可能

所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876
FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/